

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	003	医療・保健・福祉	政策項目	016	地域福祉	施策	051	社会参加と地域支え合い活動の推進	担当課	保健福祉課
------	-----	----------	------	-----	------	----	-----	------------------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
105	高齢者の社会参加と活動の場づくりを推進します。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		
活動指標	熟年人材センターへの登録（単位：人）	25	30	24	30	0	30	0	30	0	基準値：H26	
	高齢者活動拠点施設の整備（単位：箇所）	2	2	2	4	0	4	0	4	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
成果指標	熟年人材センター活動実績（単位：回）	20	20	0	20	0	30	0	30	0	基準値：H25	
	まちなかカフェ利用人数	8,559	12,600	6,209	13,100	0	13,500	0	13,900	0		基準値：H26（利用者人数）2ヶ所
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。 平成29年からの介護予防・日常生活支援総合事業に向けての高齢者の居場所づくりとなる「まちなかカフェ」は、今後必要な事業であり、熟年人材を活用したボランティア活動が重要となる。
妥当性	3. 民間等が主体的に実施すべき事業であるため、行政で実施する必要性は低い。 老人クラブ及び各ボランティア団体の事務局を所管する社会福祉協議会が事業を推進することが妥当と考える。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 老人クラブの事務局を所管する社会福祉協議会の主体となることが事業の推進上も最適であると考ええる。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 老人クラブ及び各ボランティア団体の会員が社会福祉協議会と事業の推進を図っていることで住民自治（町民の社会参加）の効果が期待できると考える。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 老人クラブ及び各ボランティア団体の事務局を所管する社会福祉協議会の事業推進が有効と考える。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 熟年人材センターの運営を行っている社会福祉協議会と連携を図り、高齢者等の生きがいがづくり構築のため、社会参加を促進するシステム作りを早急に行っていく。
	1. 計画通りに進める 1次評価と同様
外部評価	
最終評価	1. 計画通りに進める 2次評価と同様

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	—
課題・問題点	平成26年度に廃止したボランティアポイントに変わり、熟年人材登録者にとって、生きがいがづくりや社会参加に限らず、魅力あるものとなるよう検討を行う必要がある。併せて活動の場づくりの充実を図る。
改善策	熟年人材登録者の新たな募集に向け、生涯学習の分野に限らず、生活をしている中で協力を必要とする作業（庭木の手入れ、除雪等）に対する有償ボランティア等も今後検討していきたい。また、熟年人材登録者のリストを作成し、町内会、自治会、単位老人クラブ、介護保険事業所等に配布し利用の促進を図る。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	003	医療・保健・福祉	政策項目	016	地域福祉	施策	051	社会参加と地域支え合い活動の推進	担当課	保健福祉課
------	-----	----------	------	-----	------	----	-----	------------------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
106	地域の見守り・支え合い活動の充実を図ります。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	ケアラーサポーター事業に係るサポーター人数	24	20	0	22	0	24	0	26	0	基準値：H26
	ケアラーサポーター事業に係る訪問世帯数	42	120	0	130	0	140	0	150	0	基準値：H26
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 住民自治を進める上で、ボランティア団体の事務局を所管し、インフォーマルサービスへの取組が可能である社会福祉協議会の事業推進が必要と考える。
妥当性	3. 民間等が主体的に実施すべき事業であるため、行政で実施する必要性は低い。 国が進めている地域包括ケアシステムにおいて、老人クラブ・ボランティア等は、生活支援・介護予防の担い手として位置づけられており、その団体の事務局を所管する社会福祉協議会への助成は妥当と考える。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 ボランティア団体及び老人クラブの事務局を所管していることから最適と考える。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 ボランティア団体及び老人クラブの事務局を所管していることから効果が期待できると考える。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 各ボランティア団体の事務局を所管する社会福祉協議会が中心となることで公平性が保たれると考える。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	—
課題・問題点	高齢化率の上昇と合わせ、要介護者等支援の必要性がますます増大することが予想される。社会福祉協議会をはじめとする関係機関・団体との連携はますます必要となる。
改善策	これまで連携を図ってきた社会福祉協議会と合わせ、介護支援事業所等とも連携し、要介護者支援を進め、地域の見守り・支え合い活動の充実をより一層図っていく。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 今後も社会福祉協議会と綿密な連携を図り、地域の見守り・支え合い活動の推進を行っていく。
	1. 計画通りに進める 1次評価と同様
外部評価	
最終評価	1. 計画通りに進める 2次評価と同様